

山本先生

先日は大変お忙しい中、子ども大学だざいふ、ふくおかで講議して下さり、ありがとうございました。

アンケートでは、子ども自身や親が、小学生には難しいと書いてある意見もありますが、私達スタッフもそれは毎回出る感想だろうと予想しています。

子ども大学くにとちで講議をされているジャーナリストの池上彰さんも「大学だから難しいのはあたりまえです。

小学生相手だからといって、先生方もレベルを下げることはしません。

全部わからなくてもいいのです。わかることわからないこと全部含めて子ども大学の意義があるのです。」という主旨のことをおっしゃっておられました。私達スタッフも同感です。

また、個人的な話になりますが、私は地元の小学校や公民館で絵本の読みきかせボランティアをしており、子ども達と接することも多いので感じることを述べさせていただきます。

この年代の子ども達は、本当に感受性が豊かです。自我が目芽えはじめ、想像力も急激に発達します。

反面、自分の感情を的確な言葉で表現する能力は、これからなのかなという気がしています。

ですから、子ども達は一様に「すごい」という言葉を使いますが
おそらく子どもひとりひとりが先生のお話からさまざまな状況を
想像し、思いをめぐらせていたことと思います。

後々の人生で、何かの折りに、今回の先生の授業や先生との
出会いを思い出したり 考えたりしてくれることでしょう。

子ども大学では、受験勉強のようなすぐに知識として詰め込ま
れる学びを目的とはしていません。全く逆の、生涯の学びにつな
がる 眼に見えない心の栄養になるような授業をめざしており、
正に山本先生のお話は そういう内容だったと感じております。

子ども大学九州版のプレ開校という大切な節目に、

山本先生に講義していただけたこと、スタッフ一同、大変
感謝しております。本当にありがとうございました。

先生のご健康と今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

子ども大学だざいふいふくおか スタッフ